

東シナ海ガス田開発を巡る日中協議は、予想通りの（平行線と言うか決裂と言うか）の展開であったが、それにしても日本は何処まで馬鹿にされなければならないのだろう。尖閣諸島の共同開発を持ち出すなど、正に彼等は挑戦的である。親日派の閣僚も少しは目が覚めたか。ここまでに問題を長引かせ国益を損なってきた外務省・経企省政治家は猛省をせねばなるまい。最も厚顔無恥が彼等の身上だから反省などする筈がないが・

暗い話はさておき、

先日の日曜日の仲間内のゴルフコンペ、終にはセーターをも脱いでのプレーとなった。そして本日 8 日、終に 4 月上旬の暖かさだと言う。暦の上では二十四節気の啓蟄も過ぎ、春一番も吹き、春はそこまで来ている。

久々に、皇居二の丸庭園や本丸周辺を散策し、春を実感した。

紅梅・白梅は満開で、諏訪茶屋や石垣と梅を配した絵を描いている人が多かった。大手門入り口の案内にあった福寿草は残念ながら発見できなかったが、寒緋桜や寒桜、ボケ、春まっ先に咲くといわれるマンサクの花、ミツマタ等が蕾を膨らませ、桜やマンサクは満開から五部咲きであった。写メール写真で申し訳ないが、それらを紹介する。蠟梅は既に散った後であった。



#### ① マンサク

春に他の花に先駆けて咲くので、「まず咲く花」と言われそれが転じてマンサクになったとも花が沢山つくので豊年満作即ちマンサクと命名されたとも言われる。2月25日の誕生花？花言葉は幸福の再来。早春の木の花の代表

本丸への坂道にあるのはシナマンサクである。早春の2月から3月、葉の出る前に鮮黄色のひも状の花を咲かせる本州以南の日本全土の山野に自生する日本固有種のマンサク、葉の先端が丸いマルバマンサクがある。マンサクの樹皮は綱の代用になり、縄として使用され、岐阜白河の合掌家屋にも使用されている。漢方薬の原材料としても重宝されている。

#### ② ミツマタ



和紙の原料としても使用されるミツマタは、この時期に黄色い花を咲かせる。花が咲かない時期には文字通り枝が三つ又に分かれているので識別容易である。室町時代に中国から移入された。葉の出る前に咲き、枝の端に丁字形についている。小豆粒大の果実が夏に熟する。木の枝が1年に一度3つに分かれるので、分かれる箇所を数えると樹年が解る。赤い花の品種もある。

#### ③ ボケ（木瓜）



木瓜は中国原産であるが何故か、英語名ではジャポニカがつけられ、日本原産と間違えられやすい。ボケの実実は果実酒や鎮痛剤としても利用される。

漢名は「報春花」であり、うまい名前をつけたものだ。春告鳥と同じだ。

でも、われわれには語感が余り良くない。所謂痴呆症（今は認知症か）

の蔑称の「ボケ」（老人）を連想してしまう。中国名の木瓜（もっけ）が 変化してボケになった？園芸品種の数は、200 種以上と言われている。

#### ④ 福寿草



キンポウゲ科フクジュソウ属の多年草。晩秋に芽を出し、冬に花が咲き晩春には種を落とし枯れてしまう。別名ガンジツソウ(元日草)。 福を招く、縁起の良い花として喜ばれ、福寿草の名。花径は3cm ほど、花卉は多数あり、黄金色で輝いている。日本では北日本に多く、東または北斜面の乾燥のひどくない落葉樹林を好む。

#### ⑤ 寒緋桜



各種の桜にさきがけて開花し、鮮やかな濃いピンク色又は赤い花、沖縄では桜と言えば寒緋桜であり、花見を寒緋桜の下で1月下旬頃行う。別名は「緋寒桜」（ひかんざくら）。 これとは別に「彼岸桜」（ひがんざくら）という花があるので、それとの混同を避けるために、“緋寒”を”寒緋”にひっくり返して「寒緋桜」との呼び方に変えた。赤い花が特徴。

九州南部などでは旧暦の元日に咲くのでガンジツザクラとも呼ばれる。沖縄県石垣島に自生地がある。

#### ⑥ 寒桜



咲き始めるのは桜のなかでは早い方であり、1月頃から咲くものもあるらしい。大島桜と寒緋桜（かんひざくら）との雑種であり、ピンク色の花びらがいっぱい。寒桜の仲間「大寒桜（おおかんざくら）」修善寺桜「河津桜」などがある。

#### ⑦ 椿と梅

